

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 110 円台を中心に堅調に推移か

[8月16日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	8月9日～8月13日			
	始値	高値	安値	終値 前週比
ドル・円	110.24	110.80(11)	110.03(9)	110.37 +0.12
ユーロ・ドル	1.1759	1.1769(9)	1.1706(11)	1.1737 -0.0025
=====				
国内株・金利 / 米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	27,977.15	+157.11	日本10年債利回り	0.026 +0.011
ダウ平均株価	35,499.85	+291.34	米10年債利回り	1.359 +0.062

<来週の主要経済統計等>

16日 英8月ライトムーブ住宅価格

日本第2四半期国内総生産 (GDP) 1次速報

中国7月小売売上高、中国7月鉱工業生産指数

日本6月鉱工業生産指数確報値

カナダ6月製造業出荷、カナダ6月卸売上高

米8月NY連銀製造業景気指数

米6月対米証券投資

17日 英7月雇用統計

ユーロ圏第2四半期域内総生産 (GDP) 改定値

米7月小売売上高

米7月鉱工業生産・設備稼働率

パウエルFRB議長 オンライン形式でタウンホール会議

18日 NZ第2四半期生産者物価指数

日本7月貿易収支、日本6月機械受注高

NZ準備銀行 (RBNZ) 政策金利

英7月消費者物価指数、英7月生産者物価指数、英7月小売物価指数

ユーロ圏7月消費者物価指数確報値

米7月住宅着工・許可件数

カナダ7月消費者物価指数

米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録 (7月27～28日開催分)

19日 豪7月雇用統計

ユーロ圏6月経常収支

米新規失業保険申請件数、米8月フィラデルフィア連銀景況指数

米7月景気先行指数

20日 日本7月消費者物価指数

独7月生産者物価指数

英7月小売売上高

カナダ6月小売売上高

【前回のレビュー】ドル円は上下に振幅しているものの、109円割れでは底堅い動きを見せている。米経済指標や株価の動向などに左右されながら、109～110円台を中心とするもみ合いが見込まれるとした。

【米雇用統計後に米長期金利は上昇傾向】

6日に発表された7月の米雇用統計では、失業率は5.4%となり、事前予想の5.7%や前回の5.9%を下回った。非農業部門雇用者数は前月比+94.3万人増とな

り、事前予想の87.0万人増を上回った。また、前回は85.0万人増から93.8万人増に上方修正された。米雇用統計の予想を上回る好結果で、米長期金利が上昇して、ドル買いの動きに傾き、ドル円は110円台前半まで上昇した。米10年債利回りは1.297%前後まで上昇した。

11日の7月の米消費者物価指数では、前月比+0.5%となり、事前予想(+0.5%)と同水準となり、前回(+0.9%)を下回った。前年比では+5.4%と事前予想(+5.3%)を上回ったものの、前回の+5.4%と同水準だった。コア指数は前月比+0.3%となり、事前予想(+0.4%)や前回(+0.9%)を下回った。前年比は+4.3%となり、事前予想(+4.3%)と同水準となり、前回(+4.5%)を下回った。

今回発表の米消費者物価指数は、前月比が前回から伸びが鈍化しており、インフレ進行への過度な警戒感は後退したとみられる。ただ、好調な米雇用統計の結果を受けて、早期量的緩和の縮小(テーパリング)観測が高まりつつある。

米雇用統計後は米10年債利回りは上昇傾向を見せており、12日に一時1.37%超の水準まで上昇を見せた。その後は1.35%前後で推移している。ドル円も堅調な流れが継続して、11日の7月の米消費者物価指数の発表前に110.80近辺まで上昇、その後は110円台前半から半ばで推移している。

米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーによる発言も注目される。ポスティック米アトランタ連銀総裁は、9日に7月米雇用統計のような雇用の強い状況が1-2か月続けば、テーパリングを開始できるとの見解を示した。また、資産購入ペース縮小が比較的速く進むことには賛成すると発言している。

ローゼングレン米ボストン地区連銀総裁も9日に今年の秋にテーパリングを開始する意向を9月に発表するべきと発言している。12日にデイリー米サンフランシスコ連銀総裁は、早ければ年内にもテーパリングを始められると述べている。米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長はこれまでテーパリング開始に慎重な姿勢を示してきたものの、FOMCメンバーからはテーパリングに前向きな発言が相次いでいる。

米雇用統計は良好な結果となったことやFOMCメンバーによるテーパリングに向けての前向きな発言などから、米10年債利回りは上昇傾向にある。ドルも堅調な動きを見せており、ドル円は110円台に乗せた後は底堅い動きを見せている。ドル円は大きな崩れはないとみられ、110円台を中心に堅調な流れが続くとみられる。ドル買いが加速すると111円台に乗せる可能性が出てきそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、109.50~111.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、16日に日本第2四半期国内総生産(GDP)1次速報、日本6月鉱工業生産指数確報値、米8月NY連銀製造業景気指数、米6月対米証券投資、17日に米7月小売売上高、米7月鉱工業生産・設備稼働率、パウエルFRB議長がオンライン形式でタウンホール会議、18日に日本7月貿易収支、日本6月機械受注高、米7月住宅着工・許可件数、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録(7月27~28日開催分)、19日に米新規失業保険申請件数、米8月フィラデルフィア連銀景況指数、米7月景気先行指数、20日に日本7月消費者物価指数などがある。

【ユーロドルはいったん下げ渋っても上値の重い展開か】

ドルが堅調な動きを見せていたことで、ユーロドルは下落基調で推移してきた。7月30日の1.1909近辺から11日には1.1706付近まで下落した。ただ、下げが続いてきたことや1.1700ドル割れを回避したことで、その後は下げ渋りを見せている。

1.17ドル付近まで下落したことで、いったんは下げ渋りの動きを見せるとみられる。ただ、軟調な流れは継続するとみられ、戻りが一服しても上値の重い展開が見込まれる。なお、17日のユーロ圏第2四半期域内総生産(GDP)改定値、18日のユーロ圏7月消費者物価指数確報値が予想から上振れするようなら、ユーロドルの下支え要

因となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1650～1.1850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、16日に英8月ライトムーブ住宅価格、中国7月小売売上高、中国7月鉱工業生産指数、日本6月鉱工業生産指数確報値、カナダ6月製造業出荷、カナダ6月卸売上高、17日に英7月雇用統計、ユーロ圏第2四半期域内総生産（GDP）改定値、18日にNZ第2四半期生産者物価指数、NZ準備銀行（RBNZ）政策金利、英7月消費者物価指数、英7月生産者物価指数、英7月小売物価指数、ユーロ圏7月消費者物価指数確報値、カナダ7月消費者物価指数、19日に豪7月雇用統計、ユーロ圏6月経常収支、20日に独7月生産者物価指数、英7月小売売上高、カナダ6月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。